

カイガラムシの防除を徹底しましょう！

～重点防除期間～

6月19日（水）～7月24日（水）

■フジコナカイガラムシの防除対策

フジコナカイガラムシ第一世代のふ化ピーク予測（南信農業試験場）

標高400m 6月19日 標高560m 6月21日 標高680m 6月23日

防除のポイント

◆ 防除適期

- 1回目：ふ化ピークから一週間以内（標高400mでは 6月19日～26日頃）
- 2回目：ふ化ピークから約4週間後（標高400mでは 7月17日頃）

◆ 十分な薬液量をムラなく散布！

粗皮間隙、へタ下、葉の重なった果実表面など薬液が届きにくい場所に多く寄生するため、十分な薬液量でムラなく丁寧に散布しましょう。散布前に徒長枝の整理も重要です。

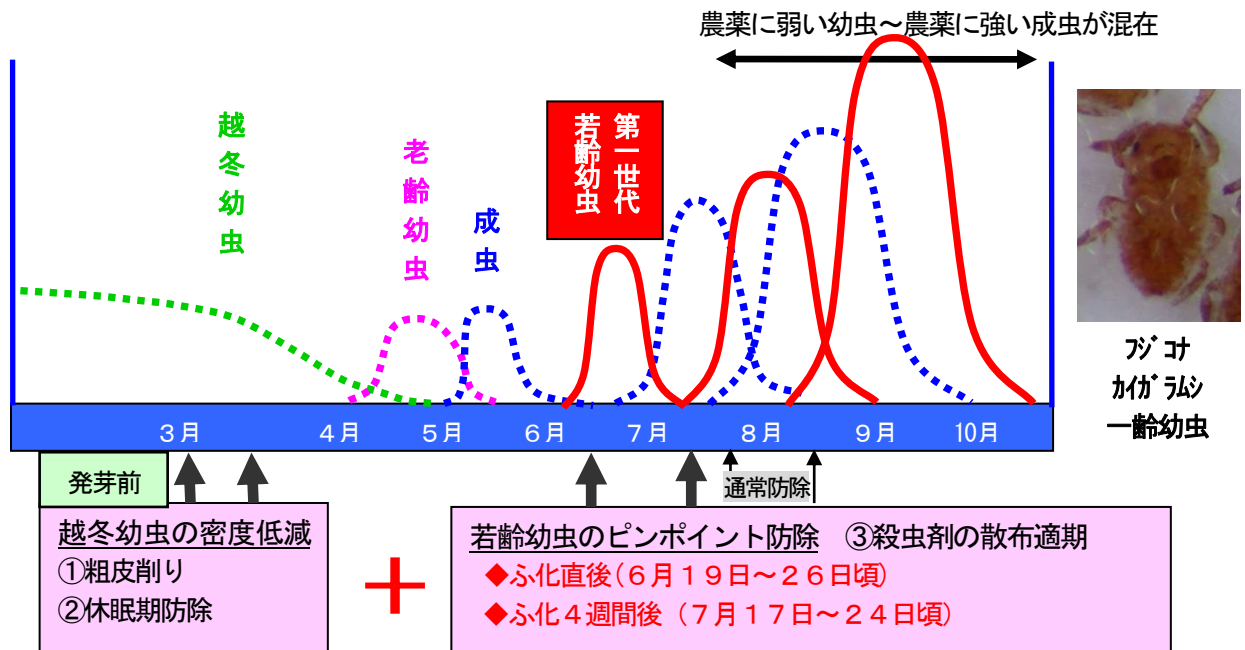


図 フジコナカイガラムシの発生消長（イメージ）

（参考）かきのカイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）に対する登録農薬の一例（令和6年6月6日JPP確認）

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	使用方法	使用量	備考
トクチオン乳剤	1,000倍	2回以内	収穫75日前まで	散布	10aあたり 200L～700L	有機リン系（IRAC：1B）
サイアノックス水和剤	1,000倍	3回以内	収穫45日前まで			有機リン系（IRAC：1B）
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	3回以内	収穫前日まで			ネオニコチノイド系（IRAC：4A）

※モスピラン顆粒水溶剤は蚕毒が特に強いので桑畑付近で使用しない。
※使用の際はラベルの記載内容をよく読み、最新の登録内容を確認する。

■円星落葉病の防除対策

- ・円星落葉病の子のう胞子は、前年の落葉から5月末～7月上旬にかけて飛散します。
- ・感染は6月～7月に起こりますが、病徴が現れるのは秋になってからです。
- ・発病してからでは防除での対応ができないので、6月から防除を行う必要があります。

防除のポイント



円星落葉病病斑

◆防除時期

子のう胞子は、通常5月下旬から7月下旬にかけて飛散します。(下図) **フジコナカイガラムシの防除と同じ6月下旬と7月中下旬を重点防除期間**として防除を実施しましょう。

◆使用薬剤(下表)

病斑形成阻害効果の高い薬剤で防除をおこないます。耐性菌の発生を抑制するため、スコア顆粒水和剤の使用は年1回とします。

◆秋に落葉処理をする

円星落葉病の**伝染源は前年の落葉**です。**落葉は埋設または土壌にすき込み**、翌年に伝染源を持ち越さないようにしましょう。



多発園の様子(10月上旬)

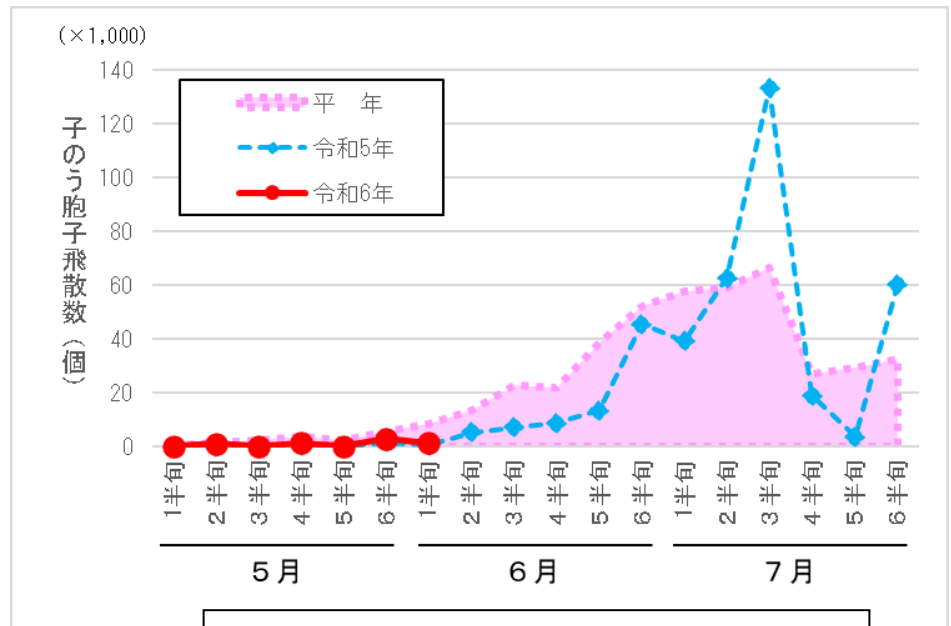


図 円星落葉病の孢子飛散の推移 (南信農業試験場)

(参考) かきの落葉病に対する登録農薬の一例 (令和6年6月6日JPP確認)

農薬名	使用濃度	使用回数	使用時期	使用方法	使用量	備考
スコア顆粒水和剤	3,000倍	3回以内	収穫前日まで	散布	10aあたり 200L~700L	DMI剤 (FRAC: 3)
シマンダイセン水和剤	600倍	2回以内	収穫45日前まで			マゼブ (FRAC: M3) (IRAC: UN)
オーソサイド水和剤80	1,000倍	5回以内	収穫7日前まで			キャブタ (FRAC: M4)

※使用の際はラベルの記載内容をよく読み、最新の登録内容を確認してください。